

# 地域計画における社会的文脈の遷移過程に関する研究

## - 自転車交通を事例として -

山口大学大学院 学生会員 ○ 武吉 弘樹

山口大学大学院 学生会員 長曾我部 まどか

山口大学大学院 正会員 榊原 弘之

1. はじめに 本研究ではまちづくりにおいて市民の合意・納得を得るための基盤としての社会的文脈に注目する。社会的文脈とは、物事を理解するための文化・社会的背景を意味する。本研究では社会的文脈はメディア記事その他、社会で生み出される言説における語句の共起性によって顕示されると考える<sup>1)</sup>。しかし、社会的文脈は、時代とともに変化し得るものと考えられる。問題解決のために、社会的文脈を変化させようと意図して発言するケースも存在する。例えば、近年の自転車の走行空間をめぐる問題は、社会的文脈が変化した代表例と考えられる。本研究では自転車問題に関する社会的文脈を明らかにするとともに、その遷移過程を分析する。

### 2. 分析手法

(1) 分析フロー 全体の分析フローを図-1に示す。まずデータ収集を行い、そのデータの分析・整理を行う。その上で分析結果を比較検討する。テキスト分析のフローを図-2に示す。共起性を測定するためにJaccard係数を用いた(式(1))。Jaccard係数が高い語句の組は共起性が高い。

$$\text{Jaccard係数} = \frac{\text{「語句A」かつ「語句B」を含む文の数}}{\text{「語句A」または「語句B」を含む文の数}} \quad (1)$$

まず関連語分析として、「自転車」との間のJaccard係数が高い語句を列挙する。次に、「自転車」を含む記事文中で、Jaccard係数の高い語句ペアをリンクで結び、共起ネットワークを作成する。

(2) データ概要 まず、2002～2012年の読売新聞記事を収集し、記事のテキスト分析を行った。次に、国土交通省・自転車活用推進研究会(自活研)・警察庁の2000年～2012年の自転車に関する活動を収集した。さらに、自転車に関する著述活動を行っている足田智氏のブログを収集した。

### 3. 結果

#### (1) 「自転車」との関連語の順位推移

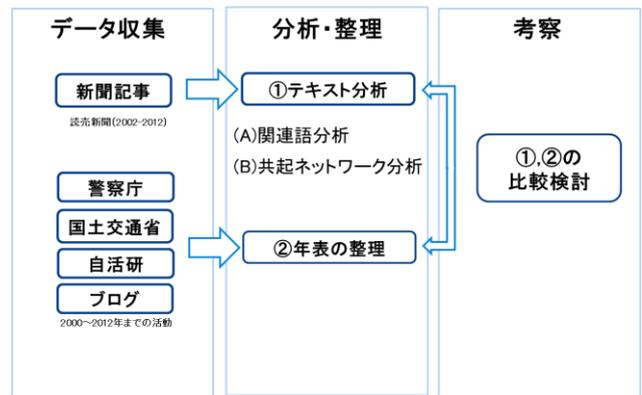


図-1 本研究の分析フロー

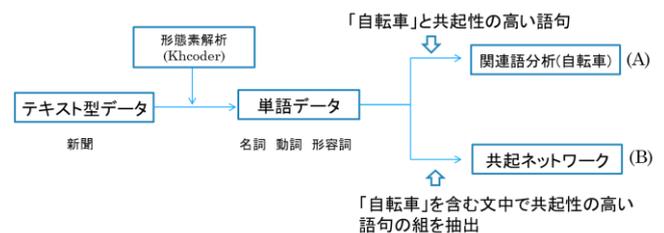


図-2 テキスト分析のフロー

図-3に関連語分析における「車道」及び「放置」の「自転車」とのJaccard係数の順位の推移を示す。2007年に「車道」と「放置」の順位が入れ替わっていることがわかる。「放置」は、共起数が減少傾向にあり、「車道」の共起数は増加傾向にあるといえる。

(2) 共起ネットワーク比較 2002年、2006年、2012年の共起ネットワークをそれぞれ図-4、図-5、図-6に示す。図-4と図-5を比較すると、2006年には「放置」と「自転車」の間のリンクがなく、これらの語句間の共起性が低下したといえる。また、2006年に「道交法」がネットワーク上に現れ、「県警」を中心に交通ルールに関する語句が増加した。図-5と図-6を比較すると、図-6は、自転車の走行空間に関する語句が増加したといえる。

(3) 年表との比較 次に表-1に自転車施策に関する諸団体の活動を整理した。警察庁、国土交通省、自活研、足田氏の各年の活動について年表として整理している。

国交省は2001年～2003年に放置自転車の撤去・駐輪場の整備・自転車利用のモラル向上を訴える広報活動を行った。この動向は2002年の共起ネットワークにも現れている(図-4)。また、2006年に警察庁は子どもや高齢者が利用の場合、交通量が多く車道が危険な場合の2つの場合に限り、歩道での自転車通行を認める提言をまとめた。これに対し、自活研と疋田氏は提言に反対し、警察庁にパブリックコメントを送付し、また、シンポジウムを開催した。反対の理由は、この提言が自転車の車道の締め出しにつながるというものであった。これらの動向についても2006年のネットワークに「道交法」という単語として現れている(図-5)。さらに、2011年に国交省は安全で快適な自転車利用環境の創出のためのガイドラインの提案を行い、これに対し自転車活用推進研究会が取りまとめに参加し、協力した。これは自転車環境の改善を目指した活動であり、2012年の共起ネットワークに現れている(図-6)。

#### 4. おわりに

- ・表-1より2006～2007年に自転車に関する道交法の改正の動きがあり、国、NPOの活動があった。
- ・諸団体の動向や情勢の変化が共起ネットワークにも表れ、共起する語句に変化が見られた。
- ・社会的文脈は時間の経過とともに変化し得ることが示された。
- ・諸団体の活動との比較分析の結果、社会的文脈の変化には、NPOその他による問題提起の影響が見られる。

参考文献：1) ワークショップ討議の質的評価に関する研究：榊原弘之、長曾我部まどか、土木計画学研究・講演集、vol.45、2012

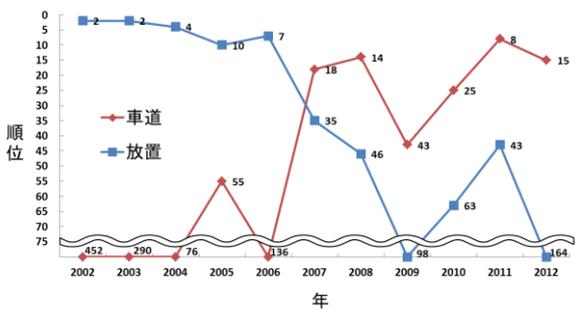


図-3 「放置」と「車道」の「自転車」に対する Jaccard 係数順位推移(2002年-2012年)

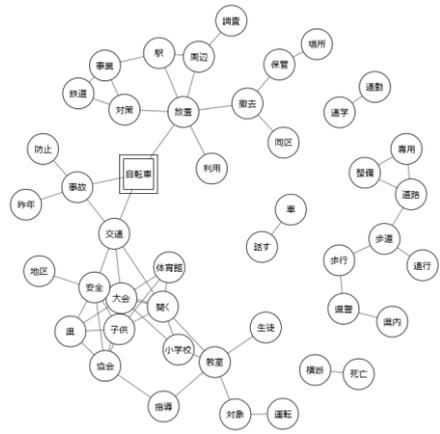


図-4 共起ネットワーク(2002)

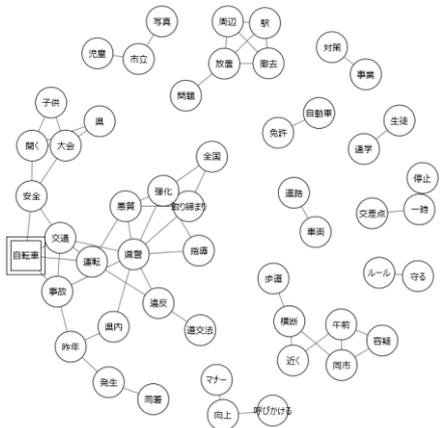


図-5 共起ネットワーク(2006)

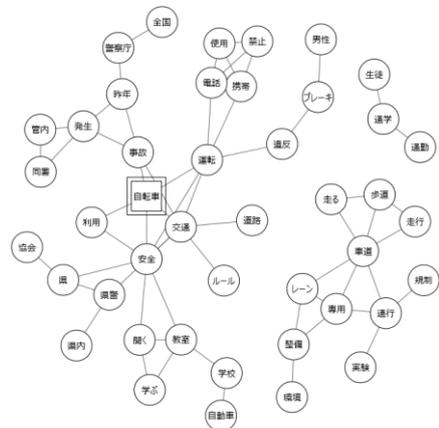


図-6 共起ネットワーク(2012)

表-1 対象期間の官庁、NPO、活動家の各活動

	警察庁	国土交通省	自転車活用推進研究会	疋田氏(ブログ)
01		01～06 社会実験	自転車走行空間の確保・駐輪対策	
02		放置自転車対策 駐輪場の整備 自転車走行空間の整備	内外の自転車政策の現状を調査・研究、取りまとめ	
03			自転車の利用促進のための政策	
06		特に危険な道路の場合、歩道での自転車通行を認める道交法の改正の提言をまとめた	自活研は提言に反対 車道歩道に関するアンケートを実施 自活研シンポジウム開催	提言に反対 自転車の車道締め出しを懸念 ブログでパブリックコメント募集
07	法案化せず	第1-5回 新たな自転車利用環境のあり方を考える懇談会	自転車専用環境の整備改善に関する調査 自転車設置で乗り入れ増加 金沢・バスレーン内社会実験	ブログでパブリックコメント募集 シンポジウム開催
08	普通自転車の歩道通行可能要件の明確化	自転車通行環境整備のモデル地区を指定		
11	9/12 通行 自転車道・歩道で自転車を一方通行とする規制条例の制定	安全で快適な自転車利用環境の創出に向けた検討委員会の開催	安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインの取りまとめに参加	8/19 自転車道・歩道で自転車を一方通行とする規制条例の制定についてのパブリックコメントを募集
12			継続	